

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870101151		
法人名	社会福祉法人 愛の会		
事業所名	いろり端水戸	ユニット名(壱番館)
所在地	茨城県水戸市開江町国置8番地		
自己評価作成日	令和 2 年 4 月 19 日	評価結果市町村受理日	令和 2 年 7 月 27 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0870101151-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和2年6月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に1名、昨年に1名の方を看取らせて頂きました。お二人供、ご家族や医療関係者とチームを組み、穏やかな最期を迎えて頂くことができました。今後もご入居者の重度化や終末期に対応したケアを行える体制を整えております。 ・地域とのつながりを大切にしており、毎年地区の運動会や敬老会に参加しております。近隣の市立保育園とは、四季折々のイベントなどで交流を深めております。 ・季節感を大切に、自然食品にこだわった、栄養のある食事を提供させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>併設された同一法人の特別養護老人ホームや訪問看護事業所との連携が取れオンコール体制にあり、家族や利用者の安心に繋がっている。</p> <p>職員は「家庭的な雰囲気です」という理念のもと体操や歌などバランスよくレクリエーションを取り入れ、雰囲気を大切に支援しており、利用者はゆったり過ごす事ができている。</p> <p>タブレットとパソコンを連携して導入し効率化を図って利用者へ還元している。</p> <p>面会者が多く利用者の楽しみになっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のユニット会議の時に資料に理念を記載し、皆で唱和している。いつでも見られるように廊下や事務所に掲示している。	ユニット会議の資料の最初に理念を載せ、毎回唱和したり、理念について共通理解を図っている。どうしたら利用者の笑顔が引き出せるか、利用者に安心した生活を送ってもらうにはどうしたらよいか、常に利用者に寄り添い、家庭的な介護を行っていくよう心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の町内会に加わり。清掃活動等に参加している。また、地区の運動会や敬老会にも参加している。	認知症地域相談窓口を設置し、職員が研修を受けて相談員になっている。近隣の小学校の運動会や敬老祝賀会、地区の市民運動会や敬老会に招待され参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症地域相談窓口を設置し、職員が研修を受けて相談員になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペースで市の職員、民生委員、ご家族などを招いて開催している。毎回様々なアドバイスを頂き、サービスに生かしている。	家族等の代表や市職員、民生委員、地域住民等が参加して定期的に開催されている。運営推進会議の委員が避難訓練に参加し、意見を出してもらい、次回の訓練に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご入居者の方で生活保護を受給している方がいらっしゃるので、市の生活福祉課とこまめに連絡を取り合っている。	介護保険の更新申請や生活保護受給者の相談などで市窓口に出向き、相談や情報交換をしている。生活保護受給の入居者がいるため、生活福祉課とこまめな連絡を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	廊下や事務所に身体拘束に関わるポスターを掲示し、いつでも確認し、理解できるようにしている。また、身体拘束適正化委員会で話し合ったり、研修に参加して知識を深めたりしている。	フロアや事務所に身体拘束のポスターを貼り、啓発に努めている。身体拘束をしないケアに関する指針を作成し、身体拘束適正化委員会を年4回開催している。職員の研修は年2回実施している。外部研修の伝達研修も行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修に参加し、そこで学んだ事を施設内研修として職員へ伝えている。事務所に虐待防止のポスターを掲示し、注意喚起を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する書面をユニット内に掲示して、職員がいつでも見られる環境にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長より詳しい説明を行った上で契約の締結、解約等を行っている。改定時は家族会で説明し、不安や疑問点を話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会でアンケートをとり、その結果を全体会議で発表している。ご家族の面会時にも、ご意見やご要望がないかお聞きしている。	年2回家族会を実施しており、家族会でアンケートを実施している。家族からの意見で、食事のメニューや排泄、入浴に関することを家族通信で連絡することにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議や全体会議で意見を伝え、話し合い、運営に生かしている。また、ユニット内に誰でも書き込めるノートを置き、意見を書いてもらっている。	毎月の職員会議等で意見や要望を聞いており、ユニット費が少ないとの声を受けて増額したことで、各ユニットの裁量でレクリエーションの用品やおやつ材料費に使えるようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、施設長が全職員と面談し、それぞれのやりがいや向上心について話し合っている。また、人事考課制度を年2回行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当法人内にある、ハートピア福祉学院で介護職員初任者研修や、実務者研修を受講している職員がいる。その際には無理なく受講できるようにシフト等の配慮を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当法人内にある他グループホームとの交流研修を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前にご本人のご自宅に出向き、サービス内容にご理解を頂いてから利用を開始している。また、利用開始後も不安や要望があれば、その都度お伺いし、安心して頂けるよう、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始時には、できる限り不安や要望についてお伺いし、話し合うことで信頼関係が築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームのサービス内容についての説明をした上で、ご本人とご家族が必要としている支援について見極められるよう、話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者の方と同じ食事を職員と一緒に会話しながら食べることで、生活を共にしているという関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には日頃の様子を伝え、現状のサービス状況をご理解頂けるよう努めている。面会が困難なご家族には、家族通信や電話で連絡し、協力体制を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	50年間通っているかかりつけの医院へ継続して受診できるよう支援している。また、グループホームに入所する前に住んでいたケアハウスの夏祭りにも毎年参加している。	入居前後の聞き取りや日頃の利用者との会話の中から把握している。自宅へ外出したり、入居前に住んでいたケアハウスの夏祭りに行くなど、以前からの関係が途切れないような支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で穏やかに過ごして頂けるように、座席を配置している。ご入居者同士が円滑に関われるよう、職員が間に入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了となっても、個人記録は保存し、いつでも経過が分かるようにしている。また、終了後の相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中から、ご本人のご希望やご意向を聞き、その都度取り入れている。困難な場合はご家族にご意見を聞いたりしながら、ご本人のご希望に近づけるよう努めている。	日々の関わりの中で言動や表情、仕草等を観察し思いを把握できるように努めている。タブレットの個人記録に記載の上、内容によりピックアップし、申し送りやケース会議等で職員に周知している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族からこれまでの生活歴や暮らしをお聞きし、サービスに生かしている。ご本人からも入居後に馴染みの暮らし方をお聞きし、それも加えてサービスを提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、全てのご入居者にバイタルチェックを行い、体調管理を行っている。また、センター方式によるアセスメントを随時見直し、その時々々の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を話し合いながら、定期的にモニタリングし、現状に即したものになっているか確認している。また、6ヶ月に一度、介護計画についてご本人とご家族からご意見を聞き、見直している。	2ヶ月に1回モニタリングを行うとともに、半年に1回家族等や本人から聴き取りを行い、見直しを行っている。要望や状態に変化があれば随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、毎日ご入居者の様子を些細なことも含めて記入し、職員間で情報を共有している。それを踏まえてケース会議やユニット会議を行い、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のご希望に合わせて一緒に散歩に行ったり、パンやヤクルトの出張販売時に購入したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園やお菓子屋、スーパーマーケットの場所を把握し、ご入居者様も活用できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限り、入居前から受診していたかかりつけ医を利用できるよう支援している。しかし、かかりつけ医が遠方にある場合はご本人やご家族と話し合った上で、近くの医院に変更している。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能なことを説明している。協力医療機関の医師による訪問診療が月2回ある。家族が付き添う場合は関係する情報をタブレットから印刷して家族に渡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ建物内にある訪問看護ステーションと契約しているので、週1回の定期訪問以外にも、何か体調の変化があった時にはいつでも伝えて、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が交代で面会し、病棟スタッフとご本人の体調について情報交換している。また、医療ソーシャルワーカーと連絡を取り合い、早期退院を進めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に向けた方針を説明し、書面で同意を頂いている。その際に、訪問診療や訪問看護と言った関係機関とチームで支援することも説明している。	看取りを行う事業所であり、入所時に訪問診療や訪問看護、チームでの支援について説明している。医療連携体制同意書・看取りに関する指針および看取り介護についての同意書を得ている。救急救命など各種研修に参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、いつでも見られるよう、フロア内に置いている。また、救急救命についての研修にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に日中を想定した防災訓練と、夜間を想定した防災訓練を行い、全職員が参加している。また、災害時には隣の特別養護老人ホームからも応援が駆けつける体制を築いている。	火災だけでなく夜間や地震、水害などを想定した訓練を、運営推進会議時などに近隣住民の協力を得て行っている。訓練後は反省会を行い課題について話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は一人一人の尊厳を大切に声かけをしている。入居契約書には個人情報の使用に関する内容が含まれており、説明し同意を頂いている。肖像権に関する同意書も別に作成し、ご家族に同意を頂いている。	誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮して、トイレの声掛けやドアを閉める際に気を付けている。個人情報に関する同意書と肖像権に関する同意書を整備している。職員は年2回研修を受けている。	肖像権に関する同意書はあるが、名前、写真について事業所内、ホームページでの掲載等利用者、家族等が選択できる仕組みづくりを期待する。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉でご自分の意思を表すことができるご入居者には自己決定ができるような声かけをしている。ご自分の意思を表すことが難しいご入居者にはわかりやすい言葉をかけたり、はい、いいえで答えられる選択肢を設けて、なるべく自己決定ができるように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのご入居者に合わせて、できるだけご本人のご希望に合った生活をしていけるよう努めている。テレビの占い番組が好きなご入居者には、各局の占いの番組の時間に合わせて見ることができるよう、配慮している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に好みを聞いたり、ご家族からこれまでの暮らし方を聞いたりしながら、その人らしい身だしなみができるよう、支援している。馴染みのある化粧品を使い続けられるようにしたり、帽子をかぶり続けて頂いたりしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者それぞれの力を生かしながら一緒に後片付け等を行っている。食事も、職員がご入居者と一緒に食べることでコミュニケーションの一つとなっている。	野菜の下ごしらえなどを利用者が手伝ってくれている。旬の食材や自家菜園の野菜を食材に使用するなど、利用者の好みに合わせた食事を提供している。テイクアウトやファーストフードなども楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居者それぞれの食事量や水分量は毎食時にチェックし、一日にどれだけ摂取できたか総量を確認している。嚥下能力が弱ってきたご入居者には、飲み込みやすい介護食品を提供し、一人一人の好き嫌いにも応じている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後と就寝前にご入居者一人一人に合わせた口腔ケアを行っている。毎月定期的に訪問歯科診療にて、治療を行い、その際に歯科医や歯科衛生士から口腔ケアについてのアドバイスを頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、それに合わせてトイレ誘導をすることで、排泄の失敗を減らすことができるよう努めている。	排泄チェック表からそれぞれの排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。夜間はポータブルトイレを使用し、できるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、乳製品をメニューに加えたり、1日1000cc以上の水分摂取を行うことで、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一番風呂が好きなご入居者には、そのように入浴できるように常に行っている。入浴を嫌がる方については、職員を変えたり、日にちや時間を変えたりしている。	入浴は、利用者の希望に沿っていつでも入れるよう支援している。これまでの生活習慣に合わせて出来るだけ遅い時間に入浴できるように、配慮している。一番風呂を好む人には一番に入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	長年、畳の上に布団を敷いて眠っていたご入居者には、その習慣を崩さないようにして、安心して肝とよく入眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関から処方される薬についての薬情報表を個別に保管し、いつでも見られるよう、台所に置いている。個人記録にも薬の処方内容を記載し、変更時に把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	こだわりがあり、決まったメーカーのお茶とヨーグルトが好きなご入居者には、常にそれらを提供している。長年見続けてきたテレビ番組にこだわりのあるご入居者には、それを毎朝見られるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご入居者のご希望に合わせて、近隣を散歩したり、買い物に出かけたりしている。誕生日の時は行きたいところをお聞きし、遠方へ出かけることもある。	近隣や近くの公園を散歩したり、スーパーマーケットに買い物に出かけたりする。季節ごとの花見や市内の観光スポットに見学に出かけたりもしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理できる方については、ご希望の額を所持して頂いている。管理できないご入居者については、事業所で管理し、それをご本人にも伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分の居室に電話回線を引いて固定電話を持っている方は、ご家族と電話で会話を楽しまれている。電話のないご入居者も、事務所にある事業所の電話を使い、ご家族と連絡を取っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者にとって過ごしやすい室温になるよう、冷暖房にて調整している。3、4月は桜、5月は鯉のぼりといった季節に合わせた飾りを付けて季節感を出すようにしている。	どの居室からもいつでもデッキに出られるようになっていて、外気にあたることができる。居間兼食堂の一角には6畳ほどの畳のコーナーがあり多目的に使用できる。壁面には交流している保育園の子どもの作品や、出かけた時の利用者の写真、レクリエーションで制作した四季を感じるちぎり絵や書道の作品等が掲示されている。観葉植物を置いたり、ソファを置いて、ゆっくり寛げる場所として配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのあちこちに椅子を配置し、ご入居者同士が気軽に座って会話ができるようにしている。独りになりたい時は、居室に自由に帰ることもできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人にとって馴染みのあるものをできる限り持ってきて頂き、居室に置いている。(例えば姿見や本など)大好きな孫の写真を飾ることで、居心地良く過ごされる方もいらっしゃる。	居室にはエアコンやベッド、洗面台、カーテン等が備え付けられている。畳敷きの部屋にカーペットを敷いてベッドを入れている。固定電話を入れている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口やフロア、廊下、トイレ、浴室には手すりを設置し、歩行ができる方にはできるだけ安全に歩いて頂けるようにしている。タンスの引き出しに、服の種類を記したラベルを貼り、ご自分で服を収納できるようにしている。		

(別紙4 (2))

目標達成計画

事業所名 いろり端水戸

作成日 令和 2年 7月 27日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	現状の肖像権に関する同意書では、同意すると広報誌やインターネットなど全てにおいての同意となってしまう。希望に沿って個別に選べる必要がある	家族や利用者が希望を選択できる仕組みを作る	肖像権の同意書欄に施設内掲示、広報誌、ホームページ等と希望をそれぞれ選択できるように作成する	0ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。